

# ESD ユネスコ世界会議交流セミナー報告書

団体名 林野庁

## 【ESD ユネスコ世界会議の成果】

交流セミナーにおいては、「森林環境教育の充実と ESD の推進」と題し、森林環境教育に取り組む方々の講演と講演者の方々等によるパネルディスカッションを行いました。

講演では、プログラムの参加者が自然を好きになったり、地域に関心を持ち、森づくり・地域づくりを行う活動組織を立ち上げたりしたなどの取組の効果が報告されました。また、関係者の幅を広げていくこと、それぞれの取組の学校や市民社会へのさらなる浸透を図ることの必要性などの今後の課題や方針等についても紹介されました。

パネルディスカッションにおいては、ESD の視点からみた各取組の意義や、森林環境教育と ESD の連携の強化を通じた森林環境教育のさらなる充実及び森林・林業が内包する持続可能性の理念の ESD への浸透を図るための考え方やその方策について、意見交換を行いました。

この中で、例えば、林業は木を植えても伐採できるのは子どもや孫の代となるなど世代を超える営みであること、また、森林は多面的な機能を有しており、森林に対する多様な価値観やニーズを理解し学び合うことで、社会全体で森林を適切に利用していく方法を考えることは持続可能な開発の本質であることから、森林・林業に関わる活動には、持続可能な開発の概念が備わっていることを確認しました。そして、このような森林・林業をベースにした ESD の取組は ESD の典型とということを確認し、その上で、活動を行っていくことが重要であることを確認しました。



## 【今後の展望】

セミナーでは、これまで実施してきた森林環境教育には ESD としての意義があることを、明確に認識することができました。

これまで、学校の森・子どもサミットなどを通じて、森林環境教育の推進に取り組んで来たところですが、このような普及の機会において、ESD を意識することでより効果的に森林環境教育を推進していきたいと考えています。

また、ESD の考え方からは、幼少期から中学生、高校生、さらにその先まで、対象者の年代に見合った森林環境教育を段階的に、かつ継続して実施することが重要と考えています。このような環境が整うよう、学校や民間団体など幅広い関係者と連携しながら、引き続き取り組んでいきたいと考えています。

